

2014年9月期 上半期決算説明資料

株式会社ユーグレナ
2014年5月

【免責事項】

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。



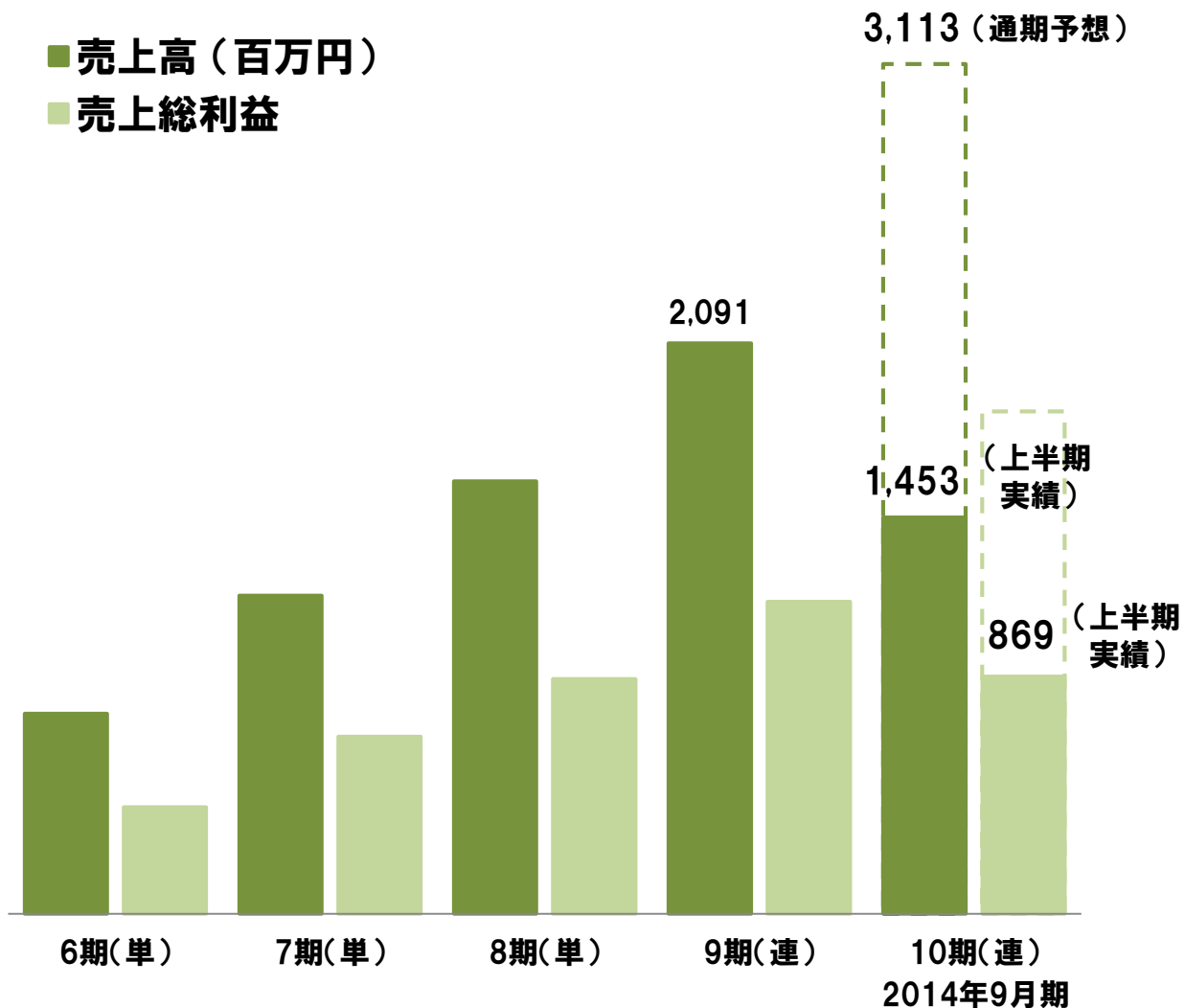
目次

- I. 2014年9月期上半期決算概要
- II. 足元の収益成長～ヘルスケア事業
- III. 将来の成長に向けた布石～研究開発進捗
- IV. 企業理念の実現～ユーグレナGENKIプログラム

2014年9月期 上半期決算概要

業績推移－売上高、売上総利益

- 売上高（百万円）
- 売上総利益



今期5割増収
に向けて
順調に進捗

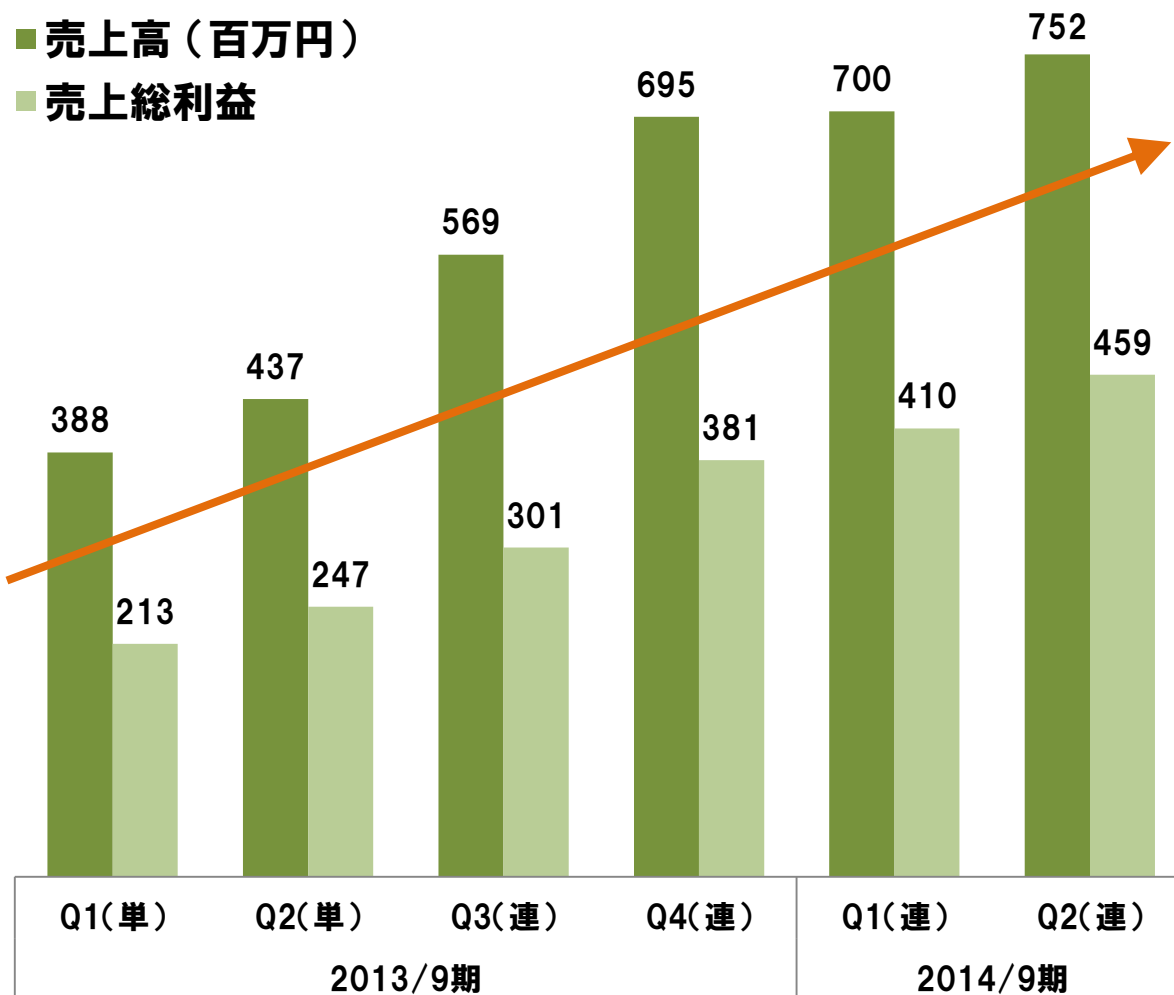


注: 2013年3月27日付で八重山殖産(株)を完全子会社化した事を受け、当社は2013年9月期Q2より四半期連結財務諸表を作成しております。当社グループの連結決算へ八重山殖産(株)の業績が反映されているのは2013年9月期Q3からとなります

業績推移－売上高、売上総利益

■ 売上高（百万円）

■ 売上総利益

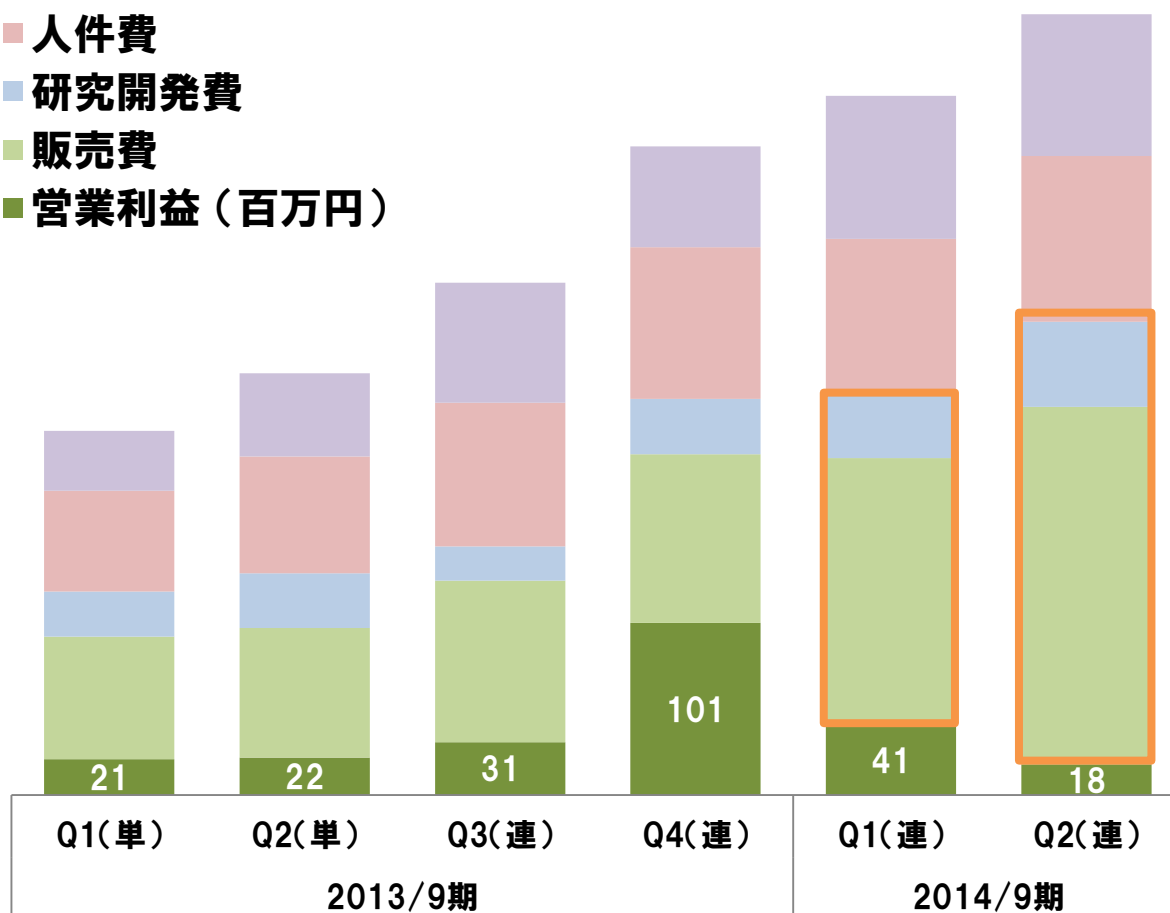


四半期ベースで
着実な成長

注: 2013年3月27日付で八重山殖産(株)を完全子会社化した事を受け、当社は2013年9月期Q2より四半期連結財務諸表を作成しております。当社グループの連結決算へ八重山殖産(株)の業績が反映されているのは2013年9月期Q3からとなります

業績推移－販管費と営業利益

- 管理費
- 人件費
- 研究開発費
- 販売費
- 営業利益（百万円）



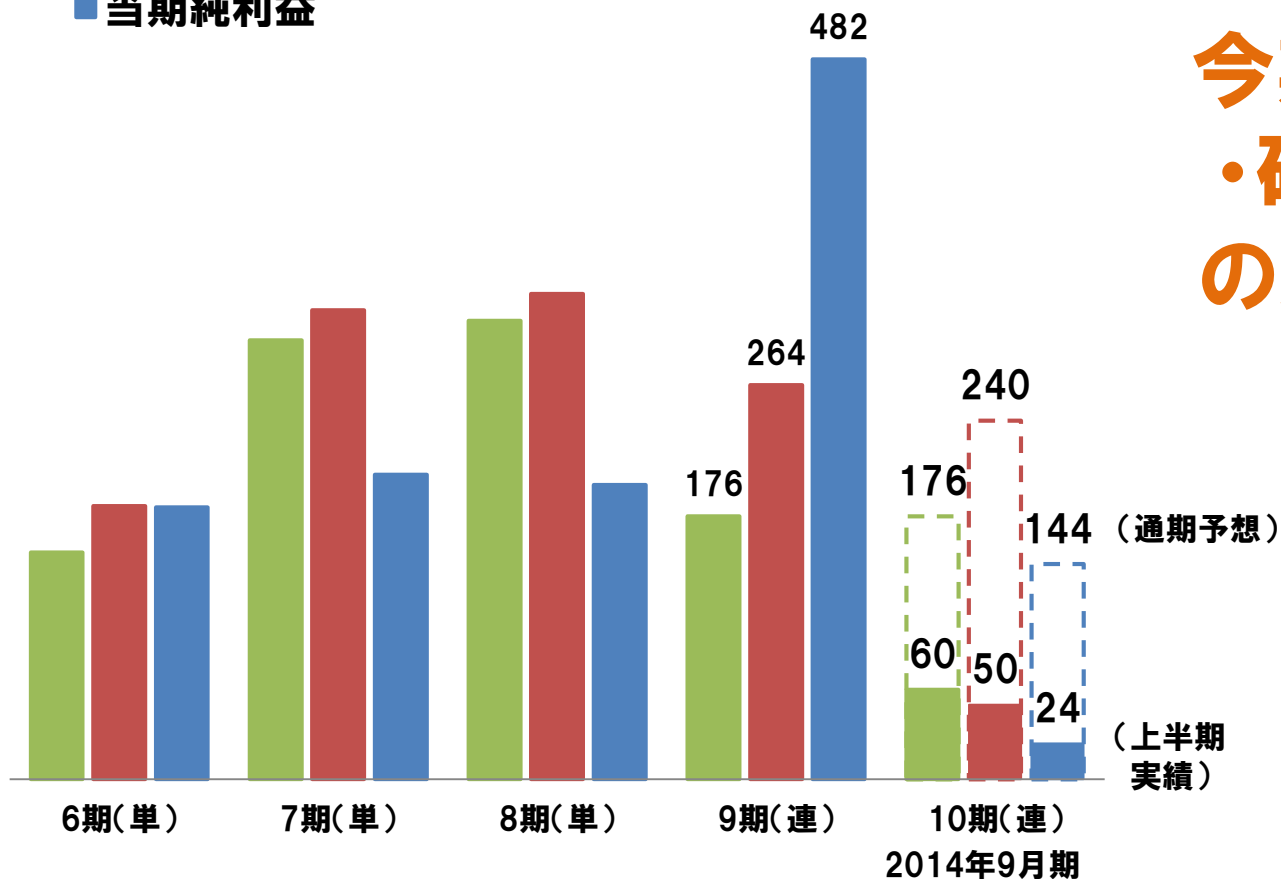
上半期は
 広告宣伝費・
 研究開発費に
 先行投資



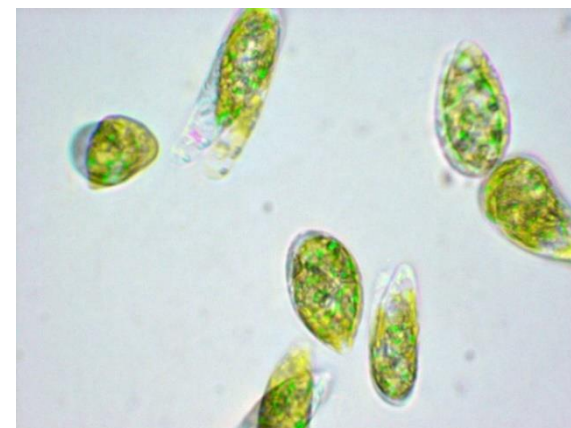
注: 2013年3月27日付で八重山殖産(株)を完全子会社化した事を受け、当社は2013年9月期Q2より四半期連結財務諸表を作成しております。当社グループの連結決算へ八重山殖産(株)の業績が反映されているのは2013年9月期Q3からとなります

業績推移－営業利益、経常利益、当期利益

- 営業利益（百万円）
- 経常利益
- 当期純利益



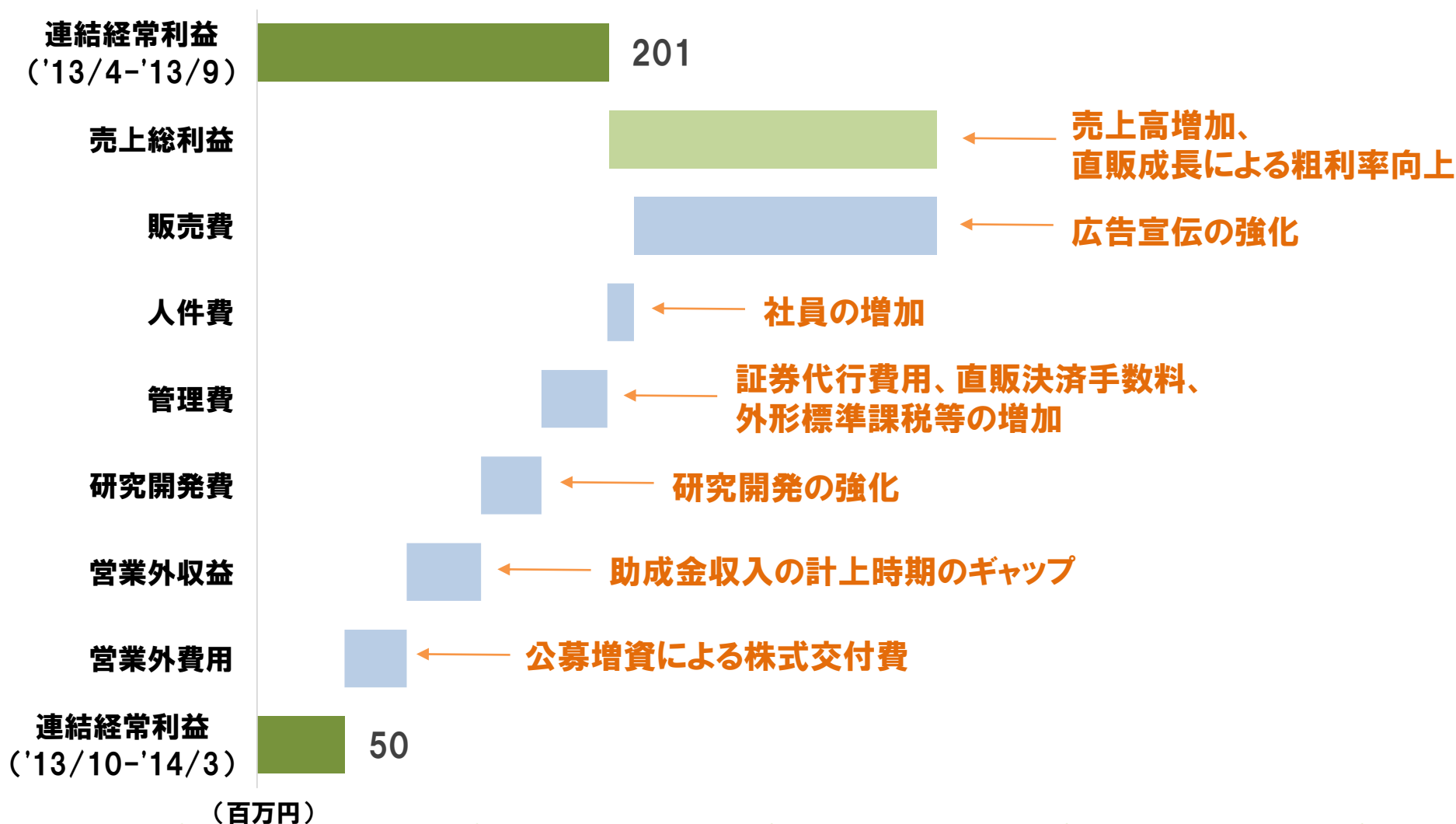
今期は広告宣伝費
・研究開発費等へ
の成長投資を優先



注: 2013年3月27日付で八重山殖産(株)を完全子会社化した事を受け、当社は2013年9月期Q2より四半期連結財務諸表を作成しております。当社グループの連結決算へ八重山殖産(株)の業績が反映されているのは2013年9月期Q3からとなります。また2013年9月期の連結当期純利益には、八重山殖産(株)の子会社化に伴い計上した負ののれん発生益322,212千円が含まれております。

前半期(2013年4月-9月)と今半期(2013年9月-2014年3月)の損益増減分析

売上総利益の増加分の大半を販売費拡充に投入。その他の諸費用の増加も加わり、経常利益は前半期対比で減少



2014年9月期(第10期)の連結業績予想

通期予想は据え置き。上半期は広告宣伝費・研究開発費に先行投資、利益計上は下半期偏重を見込む

	2013年9月期 通期実績	2014年9月期 上半期実績	2014年9月期 通期業績予想	上半期 進捗率
売上高	2,091百万円	<u>1,453百万円</u>	<u>3,113百万円</u>	47%
営業利益	176百万円	60百万円	176百万円	34%
経常利益	264百万円	50百万円	240百万円	21%
当期純利益	482百万円	24百万円	144百万円	17%

5割増収に向け
順調に進捗

利益計上は
下半期偏重
の見込み

注: 2013年3月27日付で八重山殖産(株)を完全子会社化した事を受け、当社は2013年9月期Q2より四半期連結財務諸表を作成しております。当社グループの連結決算へ八重山殖産(株)の業績が反映されているのは2013年9月期Q3からとなります。また2013年9月期の連結当期純利益には、八重山殖産(株)の子会社化に伴い計上した負ののれん発生益322,212千円が含まれております。

足元の収益成長 ～ヘルスケア事業

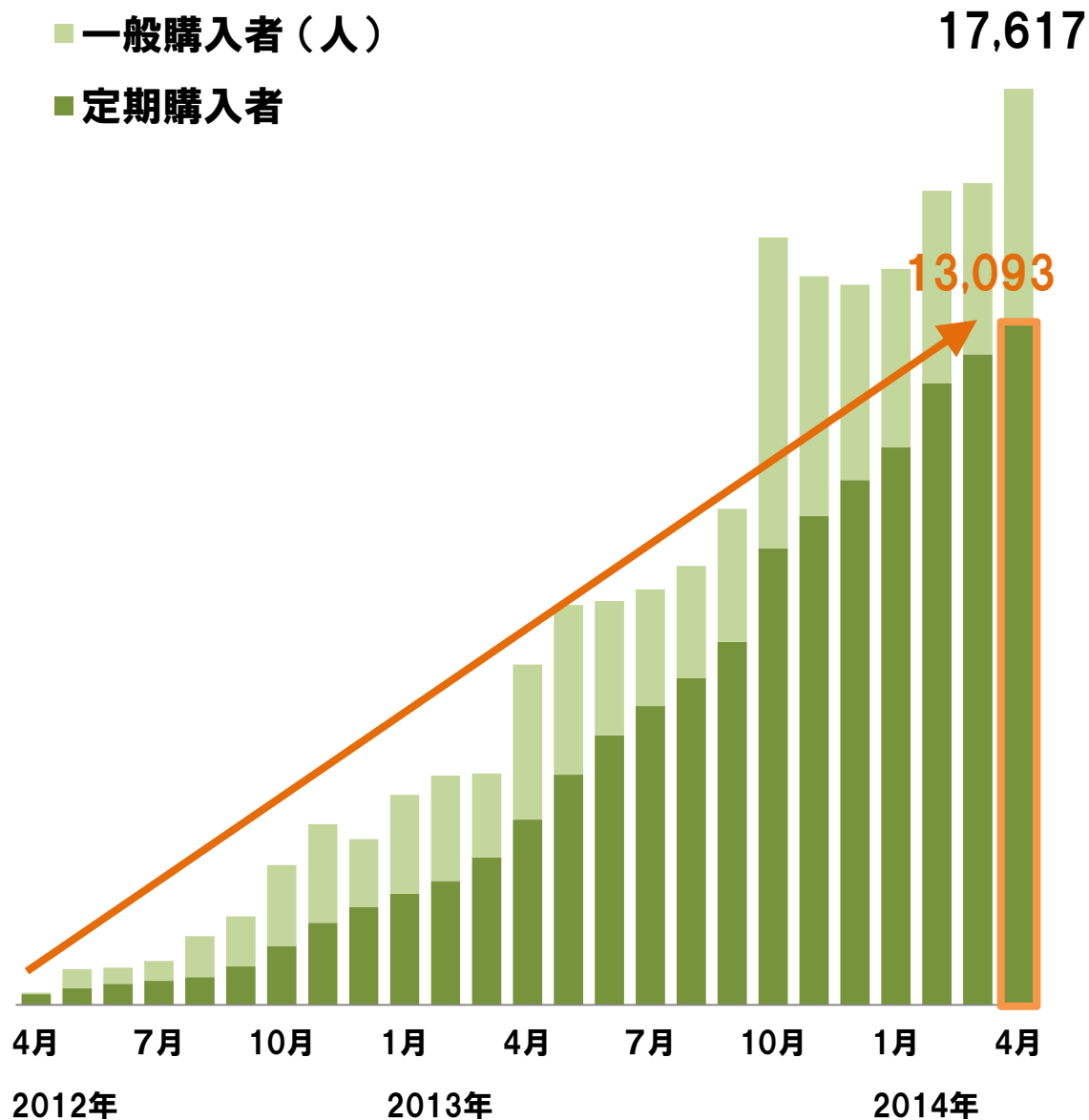
ヘルスケア事業のモデルと今後の注力分野

商品・チャネル毎に収益性・成長性が異なる中、粗利率が高く成長の果実を享受しやすい自社製品(食品・化粧品)の強化に注力

価格帯	カテゴリ	チャネル	粗利率	今期見通し
高価格帯商品 (月6,000円以上) 	食品(自社流通)	店舗、卸	高	安定成長
	化粧品(自社)	店舗、卸、ネット	高	新規ローンチ
	食品(OEM)	OEM供給	中	横ばい
	化粧品(OEM)	OEM供給	中	安定成長
中価格帯商品 (月3,000円以上) 	食品(自社直販)	ネット、電話等	高	大幅成長
	食品(海外)	OEM供給	中	中国で販売開始
	八重山殖産(クロレラ)	原料供給	低	横ばい
廉価帯商品 (～数百円) 	食品(自社)	店舗、卸、ネット	中～高	飲料商品ローンチ
	食品(原料)	原料供給	高	収益寄与限定的

ユーグレナ・ファーム(ECサイト)顧客推移

- 一般購入者(人)
- 定期購入者

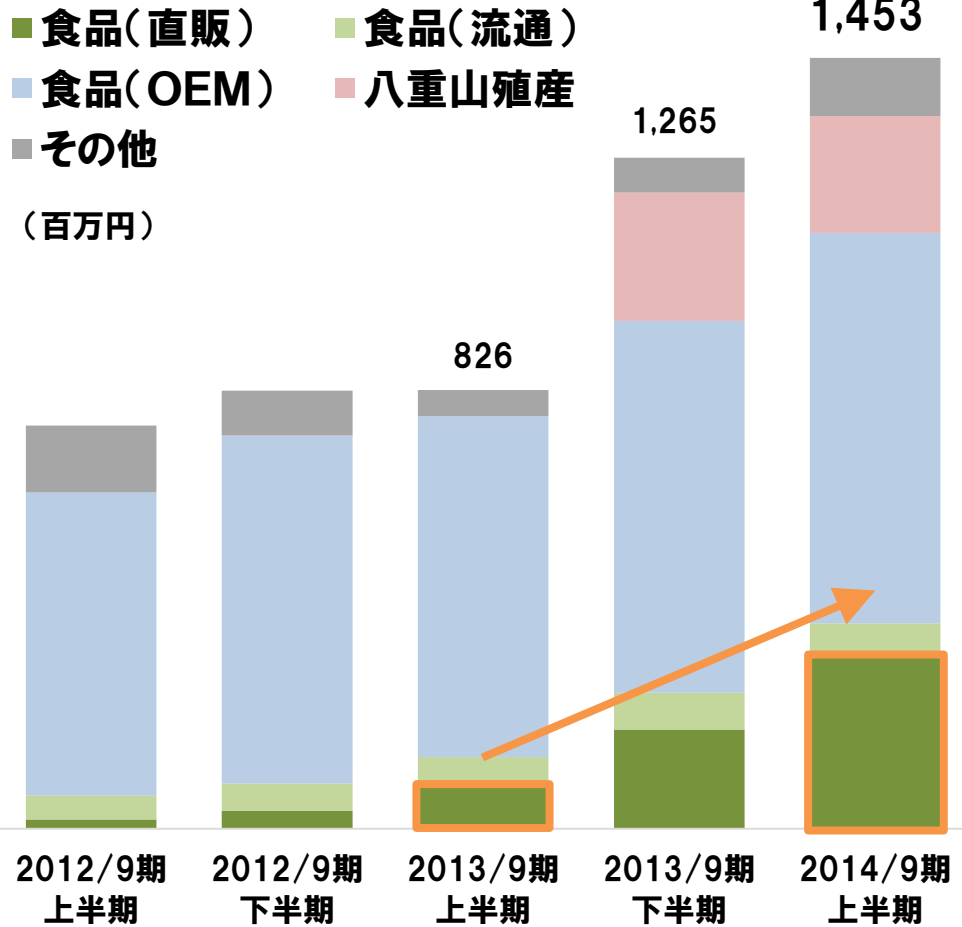


定期購入者数は
24ヶ月連続純増、

開設2周年で
1.3万人を突破!



ヘルスケア事業の売上構造の推移



食品(直販)の売上が
前年同期比4倍!

構成比も20%を突破し、
粗利率向上を牽引!

粗利率

56%

54%

60%



注:上記は当社全体の売上高であり、「その他」にはエネルギー・環境事業に属する売上高が若干含まれております。八重山殖産の売上高は連結調整後の連結寄与分を2013年9月期Q3から計上しております。

『ミドリムシを当たり前に』—ナショナルブランドとの共同商品開発



「ユーグレナ&ヨーグルト」
全国コンビニ、量販店



「デニーズ」ミドリムシ入り
ハンバーグ御膳



UHA味覚糖株式会社との共同開発商品
「ユーグレナのど飴」「e-maのど飴容器ユーグレナ&シークワサー」
「シゲキックス グミガム ユーグレナ&シークワサー」

市場認知向上策
として、ナショナル
ブランドとの提携
を積極展開

イトーヨーカ堂と「ミドリムシカラダに委員会」プロジェクトを発足

全国のイトーヨーカドー165店舗で4月15日(火)に販売スタート、
第一弾商品は食品メーカー8社と共同開発



第一弾商品



カゴメ
(野菜飲料)



ロッテ
(ガム)



カルビー
(野菜スナック)



ブルボン
(クラッカー、
クッキー)



永谷園
(即席味噌汁)



岩塚製菓
(米菓)



理研ビタミン
(わかめスープ)



モントワール
(たまごボーロ)

「ユグレナ・ファームの緑汁」動画プロモーションを開始

「今吾家の家族」というテーマで、話題のクリエイター井上涼さん作成の動画プロモーションを、WEB及び一部地域のTVにて展開



自社商品の拡大ー「ドッグフード」「きなこねじり」「緑酒」



『ユーグレナ・ファーム
のドッグフード』で
ペット用食分野に参入

イオンペット及び
当社ECサイトで発売中

『きなこねじり』と
『緑酒』もECサイトで
好評発売中



自社商品の拡充－自社ブランド飲料「飲むユーグレナ／ミドリムシ」

自社ブランドの飲料商品をローンチ、新たな収益の柱を目指す。
初の試みとして、東日本・西日本で別の商品名を採用

商品名:	「飲むユーグレナ」(東日本) 「飲むミドリムシ」(西日本) (内容は同じ)
名称:	果実・野菜ミックスジュース
内容量:	195g
価格:	259円(税込)
販売箇所:	自社ECサイトユーグレナ・ファーム (5月3日～) イトーヨーカ堂165店舗 (5月12日～) ナチュラルローソン105店舗(予定) (6月10日～)



東日本



西日本

自社商品の拡充ー自社化粧品ブランド「B.C.A.D. (ビー・シー・エー・ディー)」

2014年3月より「ショップチャンネル」・百貨店(一部)・美容室・エステサロン・専用Webサイト等にて販売開始。初回の「ショップチャンネル」では販売商品全てが完売、専用Webサイトも順調な滑り出し



【洗顔】
B.C.A.D.
ディープモイスタチャー
フォーム(120g)
3,300円(税別)



【化粧水】
B.C.A.D.
スキントリートメント
エッセンス(120ml)
5,500円(税別)

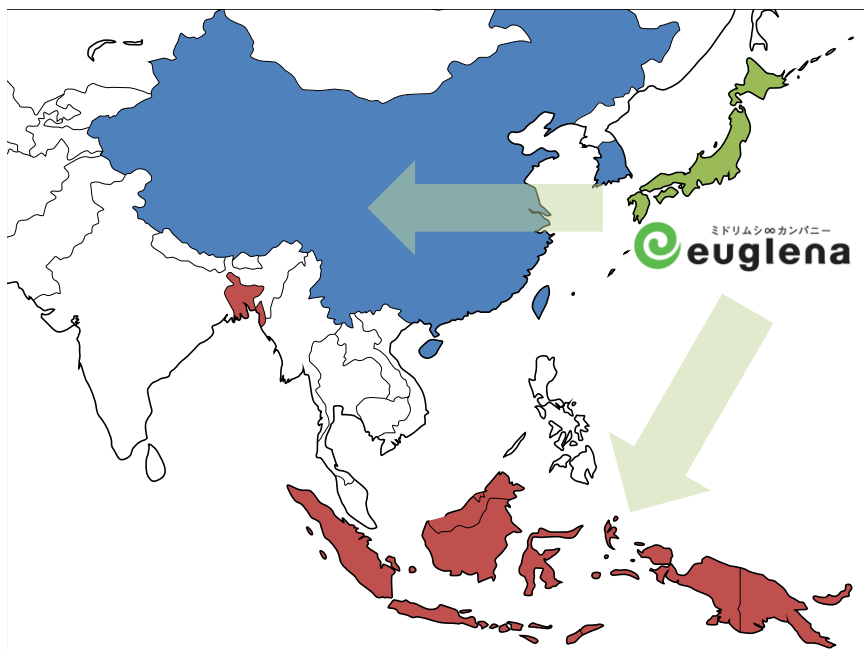


【美容液】
B.C.A.D.
インナーリフト
セラム(28ml)
7,700円(税別)



【クリーム】
B.C.A.D.
シルキーエマルジョン
クリーム(28g)
7,700円(税別)

海外市場での本格展開



中国・イスラム圏市場
参入の準備が完了

今年から本格展開を開始

●東アジア(中国)

中国においてユーグレナの
「新食品原料」登録が完了

伊藤忠商事との連携で
中国での販売を準備中

●東南アジアイスラム国

ユーグレナおよびクロレラが
「ハラール認証(※)」を取得

60兆円とも推測されるイスラム圏の
ハラール食品市場への輸出が可能に

2014年4月よりバングラデシュにて
ミドリムシ入りクッキーの配布を開始

※ハラール認証とは…

イスラム教では豚やアルコールを食用にすることを禁じており、「イスラム教の定める適正な方法で処理された食品である」ことを証明した食品に対し外装に認証マークを表示。なお、ハラールとはイスラム教において行動を律する概念のこと

将来の成長に向けた布石 ～研究開発進捗

グループの拡大と研究体制の充実

当社グループは規模・拠点数ともに大幅に拡大。中央研究所の移転も完了し、研究スペースも倍増



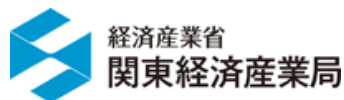
研究開発パートナー

ミドリムシの大量培養技術をコアに、様々な機能性解明、事業化を目指し、下記の大学、民間企業と共同研究、共同実験体制を構築



ユーグレナ特有成分「パラミロン」の研究開発への取り組み

高度培養生産技術の開発



経済産業省の平成24年度戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン事業)に採択され、現在も継続中。パラミロンの含有率増加及び単離抽出・精製により、有用な糖類の生産技術の開発を目指すとともに、新規食材としての機能性・生理活性を培養細胞実験・動物実験等により評価

大腸がん抑制効果

兵庫県立大学環境人間学部先端食科学研究センターと当社は、ユーグレナの特有成分であるパラミロンに大腸がん抑制効果を有することが研究によって判明し、その結果に関して2013年10月8日発刊の「Food & Function」にて掲載(特許出願:2011年9月30日)



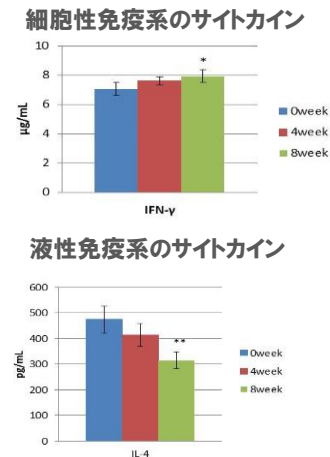
褥瘡(床ずれ)の予防・改善



パラミロンを用いた「褥瘡(読み:じょくそう)(床ずれ)を予防・改善する新規外用剤の開発」が、公益財団東京都中小企業振興公社が行う「平成25年度連携イノベーション促進プログラム助成事業」に採択(2014-2015年の2年間、助成予定額19百万円)。尚、パラミロンフィルム of 創傷治癒促進効果は2013年5月2日に特許出願済み

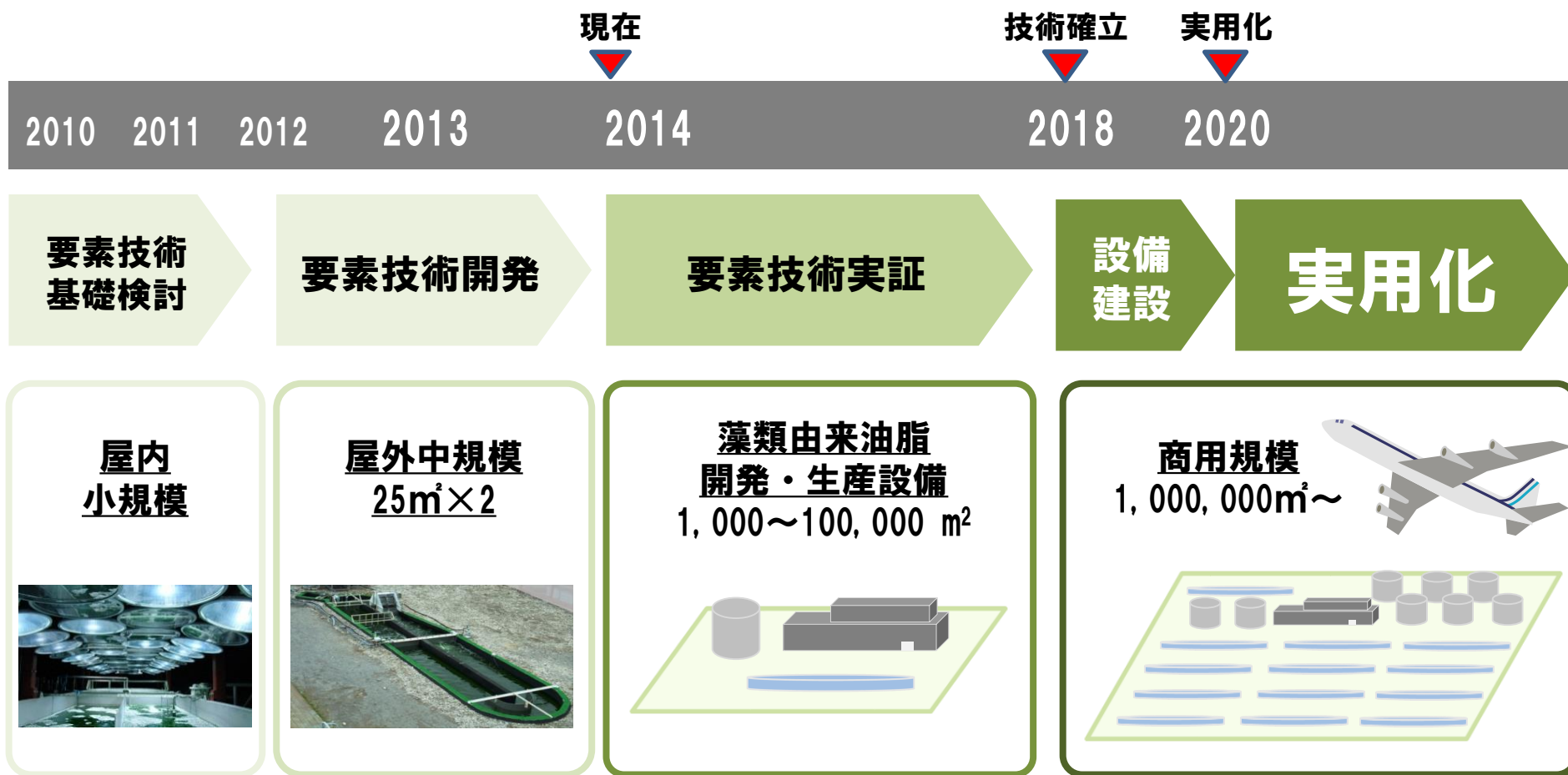
免疫バランス調整機能

パラミロンの継続摂取によって、細胞性免疫と液性免疫のバランスが調整され、どちらかに偏ることにより起こる疾患の発生を予防できる可能性が示唆されたことから、免疫バランス調整機能に関して、2014年4月8日に特許を出願



バイオジェット燃料開発への取組みー目標スケジュール

2018年の技術確立に向けて順調に進捗。公募増資による資金調達完了し、2014年からは要素技術検証に着手



バイオジェット燃料開発への取組み－政府支援

1

経済産業省：NEDO「戦略的次世代バイオマスエネルギー利用技術開発事業」

テーマ：微細藻由来のバイオジェット燃料製造に関する要素技術の研究開発
パートナー：JX日鉱日石エネルギー株式会社、株式会社日立製作所、慶應義塾大学



継続

屋内人工光照射下における生産性(培養速度38g/(m²・d))と油脂含有率(30%)の目標値を達成
当初の政府支援期間を満了したが、研究の進捗により2年間の延長が決定

テーマ：遺伝子改良型海産珪藻による有用バイオ燃料生産技術開発
パートナー：高知大学、京都大学、東京大学

移行

珪藻を1トンスケールの培養槽で培養し、回収物から燃料のテスト生産を実施完了
期間満了により2014年3月に政府支援は終了、研究開発はパートナー等と継続

2

文部科学省：JST「戦略的創造研究推進事業」

テーマ：形質転換ユーグレナによるバイオ燃料生産基盤技術の開発
パートナー：島根大学(研究代表)、近畿大学

進捗

「ユーグレナへの外来遺伝子導入方法」と「ユーグレナの形質転換体」に関する2特許を出願済み

「スーパーユーグレナ」開発への取組み－形質転換技術

JSTプロジェクトでの共同研究と植物ハイテック研究所の完全子会社化により、「スーパーユーグレナ」開発に向けた形質転換技術を拡充

1

「ユーグレナへの外来遺伝子導入方法」と「ユーグレナの形質転換体」に関する2つの特許を出願

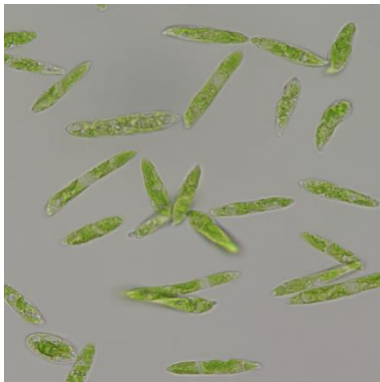
2

株式会社植物ハイテック研究所の完全子会社化

高い光合成活性を持ち、燃料の原料となるワックスエステルを高生産できる「スーパーユーグレナ」の作出のための基盤技術の確立を目指す

「ユーグレナの形質転換による光合成能力、油脂生産性の向上」や「ユーグレナの形質転換によるユーグレナの新たな有用物質生産手法の確立」に向けた研究開発の拡充を目指す

ユーグレナの増殖細胞数(期間:8日間)



野生株



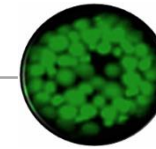
形質転換株



研究領域



植物の生産性を向上させる研究



葉緑体形質転換の研究開発

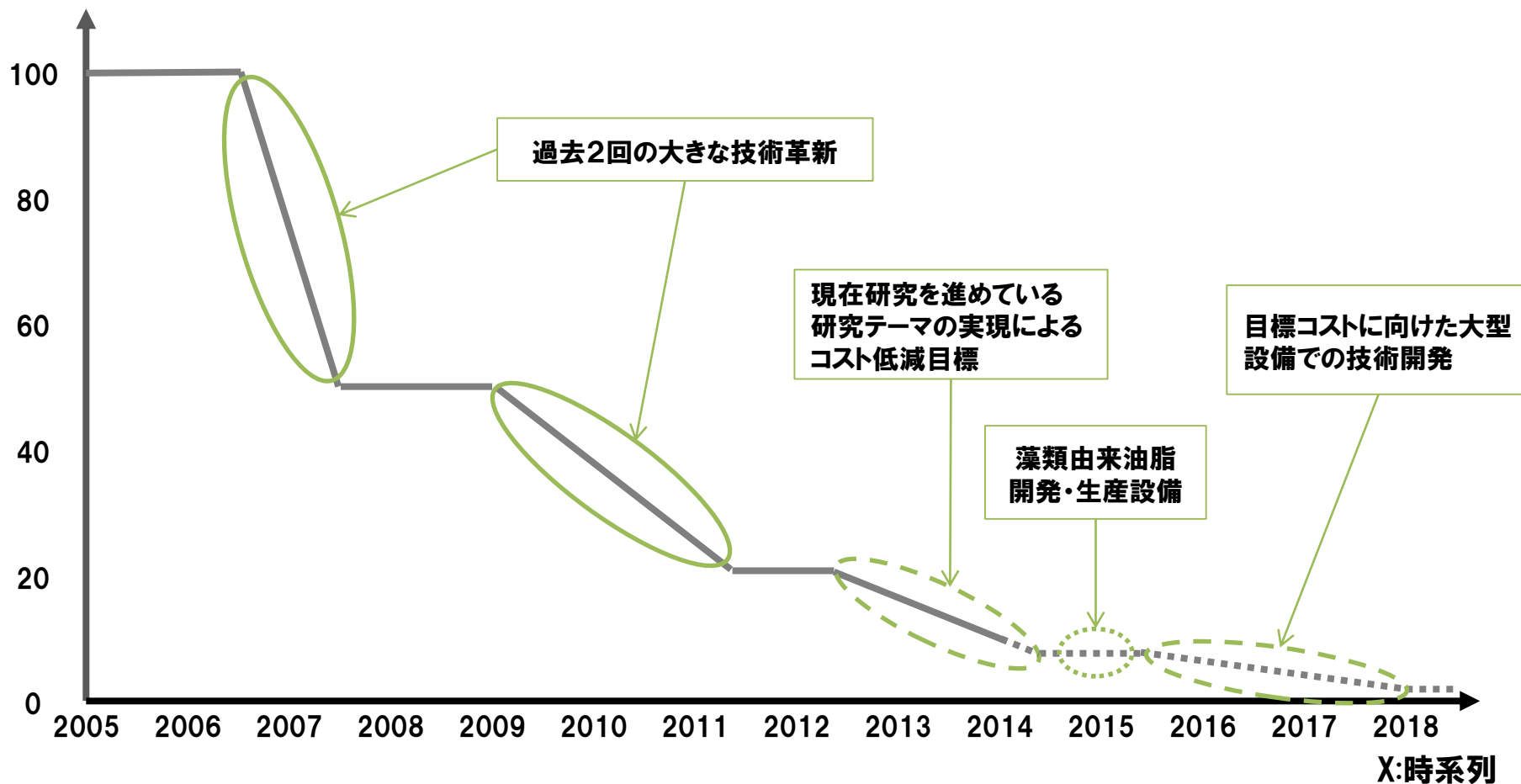


砂漠の水がめカラハリスイカの研究

2018年迄の技術開発ロードマップーユーグレナ生産コスト低減

公募増資の調達資金を藻類由来油脂開発・生産設備に投資する事で、バイオ燃料水準の低コスト生産技術の確立を目指す

Y:コスト(重量単価)

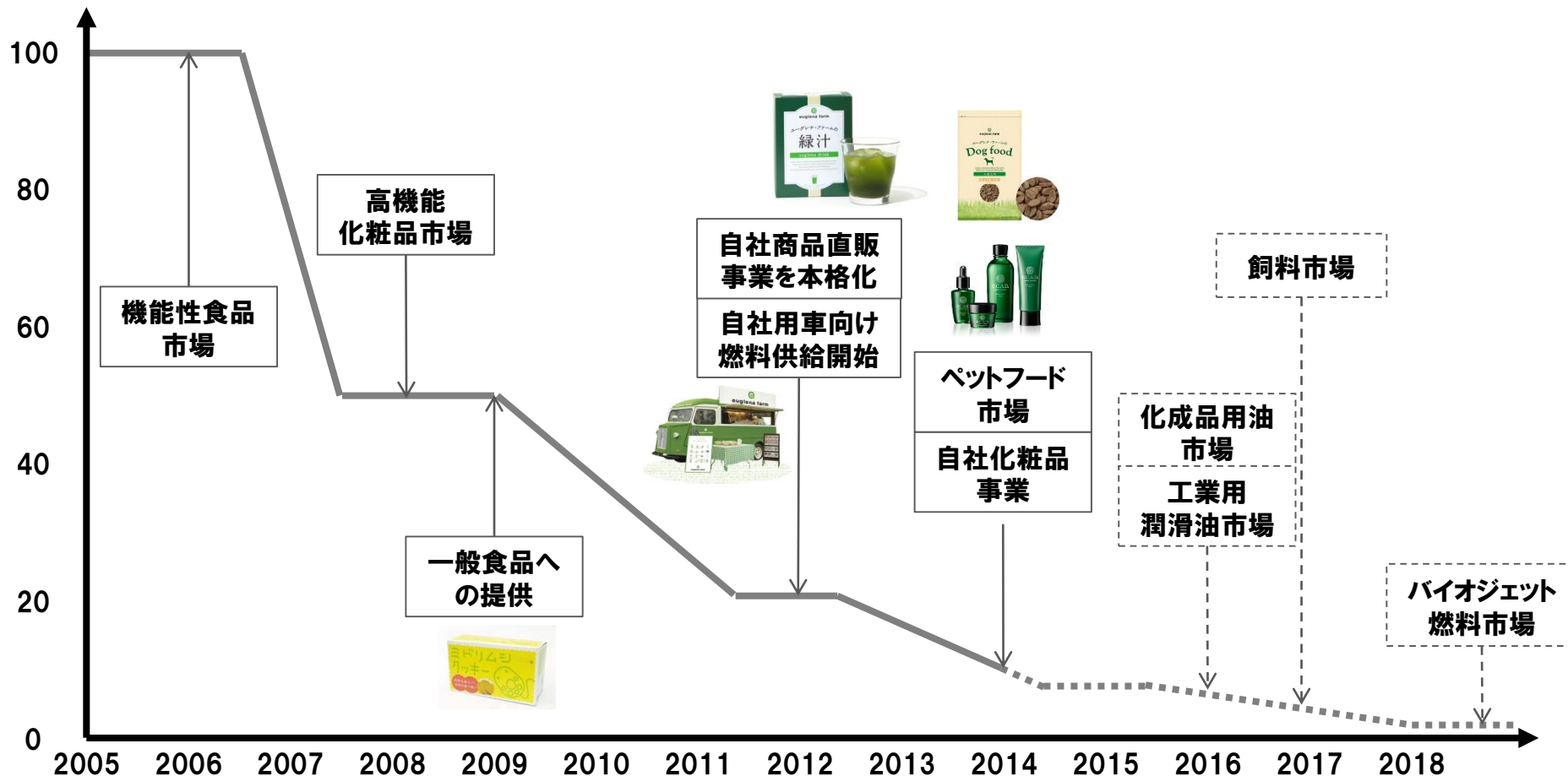


注:コストは2005年、世界初の大量培養成功当時を100としています。

2018年迄の技術開発ロードマップー研究開発により目指す新規市場

技術開発設備による低コスト化と抽出・精製プロセスの獲得に従い、5Fに従ったユーグレナ市場の拡大を目指す

Y:コスト(重量単価)



注:コストは2005年、世界初の大量培養成功当時を100としています。

X:時系列

28

公募増資－約76億円を調達

1 発行概要

発行体:	株式会社ユーグレナ		
オファリング形態:	国内公募増資及び株式売出し		
オファリング株式数:	公募による新株式発行	5,000,000株	
	株主による売出し	1,000,000株	
	第三者割当による新株式発行	897,800株	(新株シユーの行使分)
募集価格/払込価格:	1,370円/1,298.6円		
払込金額の総額:	7,658,883,080円		
主幹事証券会社:	SMBC日興証券株式会社		

2 資金使途

ヘルスケア事業		エネルギー・環境事業		財務基盤強化
企業買収資金 (10億円)	マーケティング費用 (19億円)	設備投資資金 (43億円)	研究開発費 (2億円)	借入金返済 (2億円)
国内ヘルスケア 事業の基盤拡大	自社食品製品の 販売力強化	藻類由来油脂 開発・生産設備	藻類由来油脂 開発・生産	借入金返済による 財務基盤の強化

**企業理念の実現
～ユーグレナGENKIプログラム**

BangladeshにおいてユーグレナGENKIプログラムをローンチ

2014年4月より、当社理念の実現に向けて、 Bangladeshの子供達にミドリムシ入りクッキーを配布するプロジェクトを開始



実施概要

配布物	ミドリムシ入りクッキー (1食分=6枚入り1袋、約230kcal/約50g)
実施期間:	2014年4月より、休日を除く週6日 (1日1食、期限無し)
実施場所:	ダッカ(Bangladeshの首都)のNGOが運営する小学校(5校/約2,000人からスタート)
対象者/ 配布数:	上記小学校に通う児童 (初年度計画約2,500人/約60万食)
配布数:	約60万食(初年度)
専用HP:	http://www.euglena.jp/genki_program/



現地のオープニング・セレモニーでのスピーチ

出雲からクッキーを直接手渡し



ユーグレナGENKIプログラムの仕組み

対象のユーグレナ入り商品1個につき10円をクッキー配布費用に充当、ユーグレナ市場が拡大するほど、クッキー配布対象の子供達も増加！



バイオテクノロジーで昨日の不可能を今日可能にする。

